

2-7. 福山市

No.	7	福山市
-----	---	-----

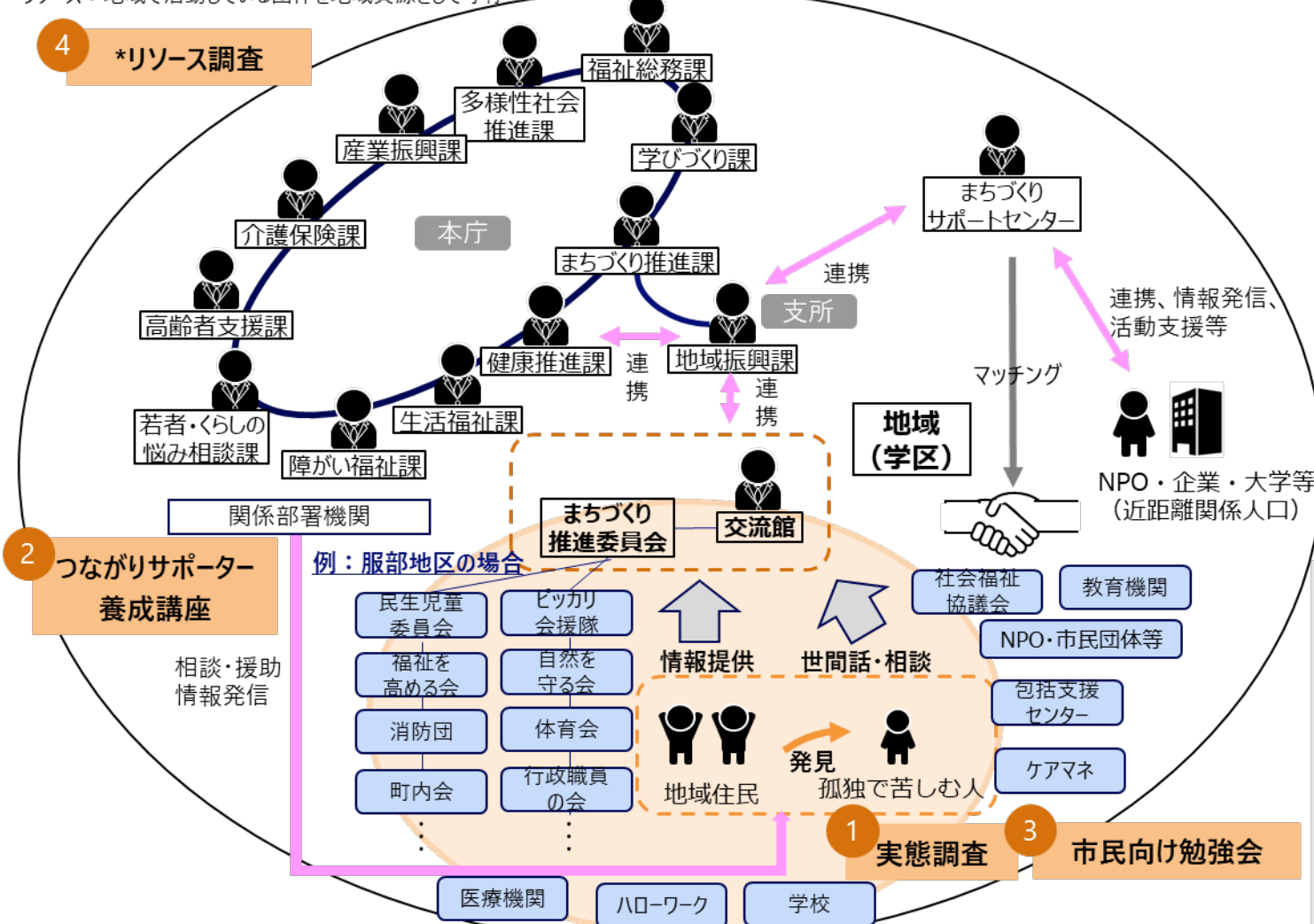
1. 取組の全体像				
1. 自治体の概要				
①	自治体名	福山市		② 担当部局名 保健福祉局 福祉部 福祉総務課
③	人口	455,418(人)＜令和 6 年 9 月末時点＞		
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)		保健福祉局 福祉部 福祉総務課／ 保健福祉局 保健部 健康推進課／ 市民局 まちづくり推進部 若者・くらしの悩み相談課
			庁内連携内 ※会議体、情報共有	・庁内関係課との横断的な連携体制の構築、関係機関の連携調整
		庁内連携部局(メンバー)		産業振興課、障がい福祉課、生活福祉課、高齢者支援課、介護保険課、まちづくり推進課(各 地域振興課)、多様性社会推進課、学びづくり課 ※今後、他部局との連携を検討し、将来は全部局が孤独・孤立対策に取組むカタチをめざす。
			庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・※今後、他部局との連携を検討
2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿				
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	○重層的支援体制整備事業 移行準備事業を経て、令和6年度から本格実施。 関係課に連携担当職員(2名)を任命する。支援者支援会議へ出席し、連携担当職員同士で「顔の見える関係性」を構築する。 ○福山市ひきこもり相談窓口「ふきのとう」 ひきこもりに関する相談窓口を設置しており、連絡会議という会議体にて年 1 回関係課を集め、会議を実施。 ○ふくやま・ヤングサポートネットワーク(PAI×2) ひきこもり・不登校・ニート問題を抱える子ども・若者・家族を支える支援機関で構成された官民連携ネットワーク。研修会等を実施。		
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール		- 様々な支援団体をつなぐ基盤となる PF の構築 - 各支援分野の担当者間の横のつながりの強化
		最終的なゴール		- 各分野が水平的につながり、PF が形骸化せず、孤独・孤立対策の継続的な協議の場として機能する。 - 孤独・孤立の問題が早期に発見され、多様な居場所へつながる。 (中間ゴール)連携担当職員含め、庁内の職員が孤独・孤立に対する理解を深める。

3. 地方版連携 PF における連携体制			
①	地方版連携 PF (種類があれば)	立ち上げ年度	令和7度(予定)
		参画メンバー	行政・社協・NPO 法人・各種ボランティア団体(居場所づくり、学習支援等)
		選出・打診時の工夫	孤独・孤立の分野に限らず、広く NPO 等へ参画を募る
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	未
		参画メンバー	—
		選出・打診時の工夫	—
4. PF 連携による価値や工夫_考え方			
- 行政・民間ともに、従来の福祉関係者だけでなく、まちづくり関連のステークホルダーと連携し、「交流の場づくり」を意識した取組をめずす。 - すでに孤独・孤立に関する取組を実施している団体等の把握に加えて、参加意向のある団体等を新たに発掘する。設立自体は行政で行うが、参加した団体同士が緩やかにつながることで、孤独・孤立対策に陥っている人が適切な支援団体につながることをめずす。また、孤独・孤立に陥っている人だけを救うのではなく、孤独・孤立に陥らない予防的な観点からの対策を進める体制構築を検討する。 - 既存の会議体(重層的支援会議等)とスケジュールを合わせ、メンバーに負担が生じないように留意する。			

2. 連携 PF イメージ

5. 連携PFのイメージ図

*リソース：地域で活動している団体を地域資源として呼称



試行的事業

- | | |
|---|---|
| ① | 実態調査
▶ 市民の孤独・孤立の実態把握
▶ 市民が望む支援の在り方の把握 |
| ② | つながりサポーター養成講座
▶ 市職員、市民（子ども）を対象とした、地域におけるサポート人材の育成 |
| ③ | 市民向け勉強会
▶ 孤独・孤立の普及・啓発
▶ ひきこもりや不登校の方に対する支援の提示 |
| ④ | リソース調査
▶ 福祉に限らない、孤独・孤立という社会課題への対応に関心のある団体の発掘
▶ 地域リソースの一覧化 |

「まちづくり推進委員会」とは...

- 福山市内の小学校区毎に設置されている自治組織であり、地域住民や地域団体が構成されている。

「交流館」とは...

- まちづくり推進委員会の事務機能を担い、小学校区毎に設置された旧公民館(市内に約90の交流館が存在)。
- 交流館の中に相談員（市職員）が常駐し、住民の相談を受け付ける。
- 勉強スペース、会議室も整備しており、居場所としての機能も果たしている。

3. 試行的事業一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫		・ PF 形成に向けて“福祉”分野以外の分野を巻き込み、社会全体で支え合える将来に向けた取組の検討 ・ 市内の実態把握とそれに基づいた方針・PF 機能の検討			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	実態調査	【調査対象及び調査対象者数】 ・ 満 16 歳以上の個人 3,000 名 【調査実施期間】 ・ 令和 6 年 12 月 9 日(月)～令和 6 年 12 月 27 日(金) 【調査方法】 ・ 16～39 歳については、はがきに QR コードを掲載して郵送し、オンライン上で回収 ・ その他の年代については、アンケート調査票を郵送により配布し、オンライン上または返信用封筒により回収 【回収率】 ・ 有効回答 905 件（回収率：30.2%）	・ 性年代毎の特徴を把握 ・ 市民の求める孤独・孤立対策について把握	12 月	株式会社 ウェルウェル (約 160 万円)
			成果検証結果	✓ 孤独・孤立を感じている人の割合(低減をめざす) ✓ アンケート結果やそれをもとに新設された支援メニューの数	
②	つながりサポーター養成講座	・ 職員、中学生の 2 種類の対象に対して、それぞれつながりサポーター養成講座を実施した。 ・ 受講者には講座受講後にアンケートを実施し、孤独・孤立への関心の高まりや、今後の意向(サポートの実施、講座内容の他の方への推奨)について把握した。	・ 声を上げやすい、かけやすい社会の構築に向けて、孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心を持ち、できる範囲で困っている人をサポートする人材の育成	1～2 月	職員用講座の講師派遣費、受講証印刷費用 (約 4.5 万円)
			成果検証結果	✓ 養成講座への参加人数：福山市役所職員等 45 名、福山市立城北中学校生徒 222 名 ✓ 職員向けアンケートにて、「今回の講座の内容を、他の職員や業務でかわりのある方にも共有しようと思う」と回答した人が 98%。	

③	市民向け勉強会	・「ふくやま・ヤングサポートネットワーク研修会」として、主にひきこもりや不登校の方やその家族を対象に子ども・若者の可能性を拓くために疑問や悩みに対する一助になることを目的として開催。 ・比治山大学非常勤講師・広島城北学園アドバイザーの和田晋氏を講師として、不登校やひきこもり事例を中心にその理解方法・関わり方をテーマに講演を行っていただくことで、孤独・孤立の社会課題としての普及・啓発を行った。 ・また、ひきこもり支援、学習支援、就職支援の NPO 法人等のブースを設け、支援団体の活動紹介や個別相談を実施した。	・市民に孤独・孤立という社会課題に関心をもってもらうこと ・主にひきこもりや不登校の方、その家族に支援の多様な在り方を知ってもらうこと	11月23日(土・祝)	-
			成果検証結果 ✓ 参加者 96 名(青少年育成員、民間団体等の支援者、自治体関係者、ひきこもり等の当事者やご家族) ✓ アンケートにて、「講演内容が参考になった」「支援団体活動紹介が参考になった」と回答する人が 9 割以上		
④	リソース調査	【調査対象及び調査対象者数】 ・市内の約 100 団体(NPO 法人、社会福祉法人、一般社団法人等) 【調査事項】 ・活動内容、人とのつながりや孤独・孤立に関連する取組の有無、PF への参画意向等 【調査方法】 ・WEB 形式で回答(発出は郵送・メールの併用)	・市内における課題・ニーズの実態把握 ・市内で孤独・孤立に関する取組で連携し得る支援団体の掘り起こし・巻き込み	3月	-
			成果検証結果 ✓ 孤独・孤立に関する取組を行う支援団体の特定 ✓ PF への参画意欲がありそうな支援団体の発掘		

- ・ つながりサポーター養成講座の継続実施
- ・ PF における連携強化(会議体開催による意見交換・情報共有)
- ・ 庁内の関係課が実施している孤独・孤立に関する講座・講演会等を集約して、連続講座等の実施

- ・ 本事業期間では、特別に何か公表は実施していないものの、広報「ふくやま」2月号で孤独・孤立に関する記事(本市の孤独・孤立対策等)を掲載した。
- ・ つながりサポーター養成講座(市職員向け)の参加者から、継続して実施してほしいという意見が出た。(主に交流館主事より)

ひとりにはせんよ。

孤独・孤立とは

孤独 …… 独りぼっちである精神的な状態、寂しいという感情
孤立 …… つながりが助けがない状態

「孤独」の考え方

- 主観的なもの
- 感じ方は多様
- 目に見えにくいもの
- 孤独(感)から孤立につながるやすい

今、孤独・孤立問題に向き合う

一人ひとりが大切にされ
つながり合うまちづくり

【福祉政策】928 / 106 / 34490

「孤立」の考え方

- 客観的なものの
(ただし主観的な要素も入り込む)
- 目に見えやすいもの

つながりの希薄化

近年の日本において、非正規雇用労働者の増加をはじめとする雇用環境の変化、インターネットの普及に伴うコミュニケーションの急速な進展などにより、私たちの生活環境やライフスタイルが急激に変化してきました。これによって人口減少、少子高齢化、核家族化、未婚化・晩婚化が増加を伴った社会環境の劇的な変化が進み、地域社会を支える関係・絆といった人と人との関係性、つまりつながりは希薄化の一途を辿ってきました。

一、このような雇用環境、生活環境や家族形態の多様化や所得格差の拡大などにより、地域内での関わり合いや相互に支え合ってきた機会が減少するなど、社会的つながりを失ってしまっている人が増えていることが懸念されています。そして、人々が生き生きと暮らす状況を生み出すために必要な活動が衰えていくなか、孤立が生じていると考えられます。

本市の孤独・孤立対策

孤独・孤立が抜け出せないと感じている人への支援を行う「要因をひとへ問くことにより個人の困り事を解決し、望まぬ孤立、孤立に陥る人を減らす」ことを目指していくため、「1人でもよい」という考えのもと、さまざまな取り組みを実施しています。

また、孤立対策官による連携したサポートを共有し、予防的アプローチや持続可能な地域づくりにつなげるような施策を検討し、推進していきます。

あなたはおひとりじゃない
(内閣府 孤独・孤立対策推進官)

国の孤独・孤立対策

2022年から始まった国の「孤独・孤立対策」は、「孤独・孤立対策の重点目標」に基づいて、孤独・孤立の問題を一層取り除き、誰もが安心して暮らせる社会を実現することを目指す。自助利用を促進できるような社会と、相互に支えあふ人と人のつながりが生み出される社会をめざし、食料供給に課題の実態を通じた政策的対応を推進していく。

23 広報ふくやま 2025年2月号

4. 連携 PF の行程および実務上の留意点

【PF 立ち上げまでの行程】

実務上の留意点				
連携 PF の行程	過年度	令和 5 年度:PF の基本的な考え方の検討	今年度	令和 6 年度:PF の立ち上げの準備

(ア)初期段階				
主担当部署の 設定	R5 年度	■ <u>制度の狭間にいる方を支援する福祉総務課が担当</u>	R6 年度 4 月～	
担当者の初動		—	R6 年度 8 月～	■ <u>昨年度の反省を活かし、今年度の試行的事業を棚卸</u>
(イ)準備段階				
連携 PF の 企画・設計	—	—	R6 年度 4 月～	■ <u>既存の枠組みを利用した PF 形成、コアメンバーでの事前打ち合わせを検討</u>
関係団体の リストアップ (庁内)	R5 年度	■ <u>福祉以外の部門との連携を模索</u>	R6 年度 4 月～	■ <u>福祉以外の部門との連携を模索</u>
取り組み テーマの設定			R6 年度 8 月～	■ <u>試行的事業の一つとして「つながりサポーター養成講座」に手上げ</u>
地域の 現状把握	R5 年度	■ <u>既存の連携団体等に、孤独・孤立に関する活動意向の把握するための調査を実施</u>	R6 年度 12 月 ～	■ <u>交流館に関する設問も含めた孤独・孤立についての調査を実施</u>
関係団体の リストアップ (庁外)	R5 年度	■ <u>社会資源マップの見直しを実施</u>	R6 年度 3 月～	■ <u>若者支援を実施する団体、見守り機能を提供する民間企業など、多様な団体への声掛けヒアリングを実施</u>
(ウ)設立段階				
域内住民・団体 への情報発信	R5 年度	■ <u>ワークショップ、セミナー、フォーラム等を実施して、孤独・孤立という社会課題の普及・啓発を実施</u>	R6 年度 11 月 ～	■ <u>広報誌の活用・イベント実施による市民への普及・啓発を実施</u>
連携 PF の 運営	—	—	今後	■ <u>庁内外の取組について把握し合った上で連携策を検討できるような PF の運営を検討</u>

(エ)自走段階				
地域協議会の設置	—	—	今後	■ <u>既存の枠組みを活用した地域協議会の設置を検討</u>
PF の拡大・活性化	—	—	今後	■ <u>民間企業なども含めた多様な支援団体による PF 運営を検討</u>

【それぞれの段階での留意】

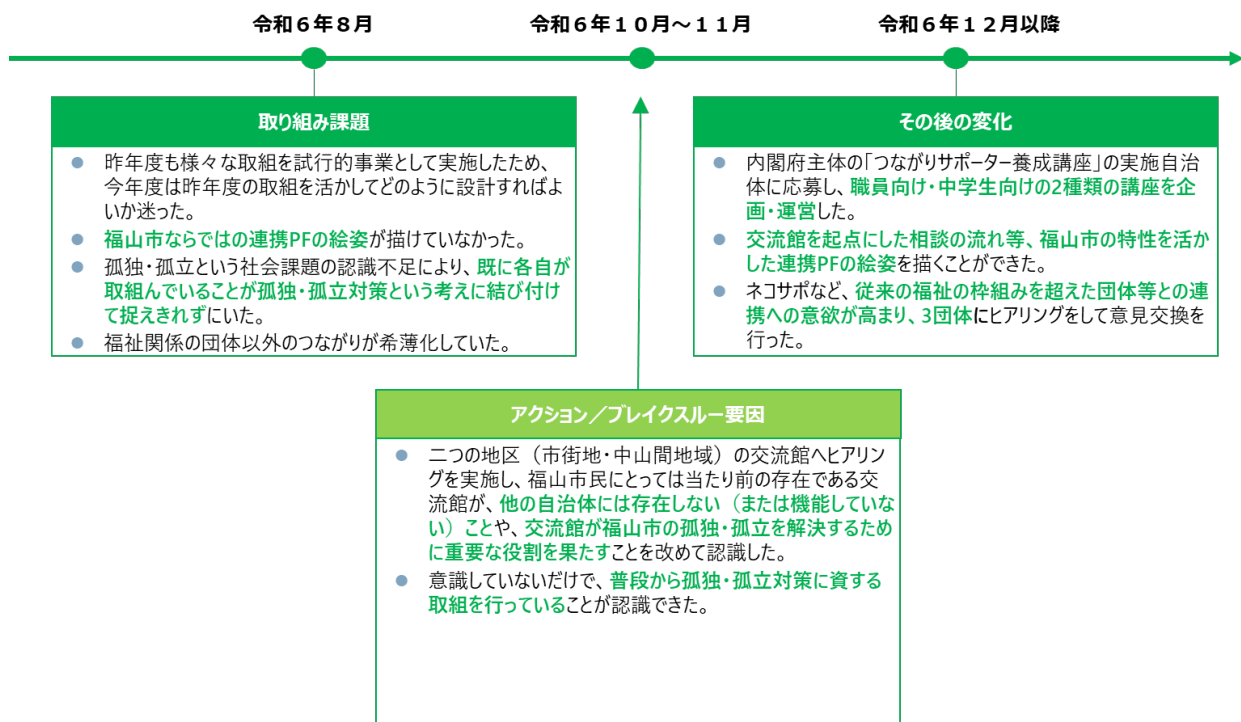
(ア)初期段階		
①	主担当部署の設定	■制度の狭間にいる方を支援する福祉総務課が担当 - 福祉総務課は、元々福祉の制度から抜け落ちてしまう人の支援を実施する立場にあり、子ども・若者以外の孤独・孤立担当ともなっていた。 - 他部署を巻き込むにはトップダウンも必要であり、首長の孤独・孤立への理解を促進することが重要であると感じた。
②	担当者の初動	■昨年度の反省を活かし、今年度の試行的事業を棚卸 昨年度は試行的事業をこなすことで精いっぱいであったため、今年度は再チャレンジとして、他部署の意見も聞き、8月に何を実施するかを議論して決定した。目的や取組テーマが明確化されてからの動きはスムーズだった。

(イ)準備段階		
③	地域の現状把握	■交流館に関する設問も含めた孤独・孤立についての調査を実施 - 市民の実態調査は今年度成し遂げたいことの1つであり、企画もスムーズであった。 10月の交流館へのヒアリングを経て、独自設問として交流館に関する設問を設計した。
④-1	取組テーマ決定	■試行的事業の一つとして「つながりサポーター養成講座」に手上げ 民生委員・児童委員の会長から「地域共生社会推進員を育成できる講座を開いてほしい」と打診があり、内閣府が推進するつながりサポーター養成講座がそれに該当すると考え、応募した。
④-2	連携PFの企画・設計	■既存の枠組みを利用したPF形成、コアメンバーでの事前打ち合わせを検討 - 子ども、高齢者支援など、これまでの枠組みを利用したPF形成が望ましい。 - PF形成前に、コアメンバーを集めて、ワークショップのような形式でPFのあるべき姿を話し合うことが理想。
⑤	関係団体のリストアップ 初期メンバーへの声掛け	■福祉以外の部門との連携を模索 - 様々な社会課題が孤独・孤立に結びつくと考え、ひきこもりに関する相談・自殺対策等を行う健康推進課、青少年や若者の友人関係・非行等の相談を受ける若者・くらしの悩み相談課という福祉系の部署のみならず、まちづくり推進課にも声をかけた。 - つながりサポーター養成講座は、福祉部門のみならず、市の職員全体に声をかけ、理解を促進した。
		■若者支援を実施する団体、見守り機能を提供する民間企業など、多様な団体への声掛けヒアリングを実施 - ひきこもりを一つのテーマとして扱いたいと考えており、若者支援を行っている団体(どりいむスイッチ、福山市スポーツ協会)にはPFについて構想を話し、意見を聴取した。 - ヤマト運輸が実施しているネコサポなど、福祉分野以外の出自で孤独・孤立対策につながるような取組を行っている民間団体にも積極的に声をかけていきたい。

(ウ)設立段階		
⑥	域内住民・団体への情報発信	■広報誌の活用・イベント実施による市民への普及・啓発を実施 - ひきこもり支援をテーマとしたイベントの開催、市の広報誌「広報ふくやま」の一部ページで孤独・孤立を取り扱うことで、市民への普及・啓発に努めた。 - つながりサポーター養成講座の開催を職員向け、中学生向けに行うことで、市民の意識の向上を目指した。
⑦	連携PFの運営	■庁内外の取組について把握し合った上で連携策を検討できるようなPFの運営を検討 庁内も庁外もそれぞれが実践している取組をまず知り、同じテーブルにのせることが重要である。孤独・孤立対策になっていると実施主体が気づいていない取組もある。それぞれが実践している取組を知ることで、どことどこが連携できるかが明らかになる。

(工) 自走段階		
⑧	地域協議会の設置	■既存の枠組みを活用した地域協議会の設置を検討 - 孤独・孤立のみで地域協議会を設置することは考えにくく、他の社会課題とあわせた枠組みを考える予定。 - 庁内の巻き込みを促進するためにも、令和 8 年度地域福祉計画改定の際に、「孤独・孤立」を組み込みたい。
⑨	PF の拡大・活性化	■民間企業なども含めた多様な支援団体による PF 運営を検討 - 既存 PF (例: 子ども・若者支援地域協議会) と、孤独・孤立 PF 設立に向けて声をかけたい団体がかぶっているため、既存 PF と適宜連携していきたい。 - 金融機関、郵便局など、見守り機能を担っている福祉分野以外の団体に拡大したい。

ブレイクスルー要因		
	アクション/ ブレイクスルー要因	■「交流館」という福山市ならではの居場所が、孤独・孤立という社会課題を解くために重要な役割を果たすことを再認識した点 - 昨年度も様々な試行的事業を実施したものの、福山市ならではの連携 PF の絵姿が描けていなかった。また、孤独・孤立という社会課題の認識不足により、既に各自(庁内の他部署、庁外の支援団体)が取組んでいることが孤独・孤立対策という考えに結び付けて捉えきれずにいた。 - 小学校区毎に設置され、相談員が常駐する旧公民館である「交流館」へのヒアリングを通じて、福山市民にとっては当たり前の存在である場所が、他の自治体には存在しない(または機能していない)ことや、交流館が福山市の孤独・孤立を解決するために重要な役割を果たすことを改めて認識した。 - その後、交流館を起点にした相談の流れ等、福山市の特性を活かした連携 PF の絵姿を描くことができた。また、ネコサポなど、従来の福祉の枠組みを超えた団体等との連携への意欲が高まり、3 団体にヒアリングをして意見交換を行った。



コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

ネコサポ 福山中央

- ・ ネコサポは、宅急便の提供のほか、レンタルスペース、物品販売、家事サポートサービスなど、さまざまなサービスを提供するヤマト運輸の施設を指す。地域の困りごとからビジネス課題まで気軽に相談でき、解決できる場所を目指している。
- ・ ヤマトグループは、「誰もが住み慣れた街で安心して暮らし続けられる」環境の構築と、地域社会の健全で持続的な発展、そしてそこに暮らす人々のより安心・快適な生活の実現を目指し、平成28年に東京都多摩市に「ネコサポ」を設置。その後、千葉県松戸市や千葉市、神奈川県藤沢市、宮城県仙台市に展開している。西日本初のネコサポとして、令和5年1月に福山中央店がオープンした。

📍 地域密着型店舗として、福山市や域内の団体と相互に協力し、市の活力と魅力の向上に寄与することが目的

- ・ 福山市とヤマト運輸株式会社は、令和6年1月に「包括連携に関する協定」を締結し、子育て世代・高齢者・障がい者への支援に関することや、安心・安全な暮らしの確保に関すること等について、連携を図る。
- ・ 地域の事業者と連携した福山市の名産品を販売、地域のイベントと企画したイベントの開催、大人の音楽教室や企業内ミーティング等を用途としたレンタルスペースの貸し出しなど、地域に根差した活動を実践している。孤独・孤立対策としては、弁当会社と連携した見守りを含む弁当の配送、セコム株式会社と共同での、高齢者宅へのコミュニケーションロボットの導入支援等に力を入れている他、宅急便を受付する際に地域市民から請け負った相談を、市役所につなげたという実績を持つ。

📍 PF への期待は、支援団体との持続可能性のある関係性の構築、地域市民の声を反映した支援の提供

- ・ 支援団体側としては、よかれと思って開催した取組等が地域住民から「必要ない」と思われてしまうこともあるため、ネコサポ等を活用しながら地域市民の声を聞き、ニーズを満たすことのできる取組を行いたい。
- ・ 支援団体同士の連携について、単発のイベントでコラボレーションするのみだと、支援団体同士の関係が構築しづらく、何かあったときに相談もしにくい。どのような支援団体が市域に存在し、それぞれがどのような取組を行っているかについて、定期的を知る機会があるとよい。

(店舗外観)



人や地域、企業とつながり、社会課題解決にむけた取組を実施しております。ネコサポが地域を繋ぎ、様々な企業や団体との協働で、ばらのまち福山に貢献できれば幸いです。

ヤマト運輸株式会社
ネコサポ福山中央
寄國 博志様

5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	出席者 打合せ相手	NRI
1	8/27(火) 10:30-12:00	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様、末宗様	生駒、谷本、坂田
		福山市 保健福祉局 保健部 健康推進課	柿木様、佐伯様	
		福山市 市民局 まちづくり推進部 若者・くらしの悩み相談課	佐藤様	
2	9/18(水) 9:00-10:00	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様	生駒、坂田
		福山市 保健福祉局 保健部 健康推進課	柿木様、佐伯様	
		福山市 市民局 まちづくり推進部 若者・くらしの悩み相談課	佐藤様	
3	10/10(木) 9:00-10:30	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様、末宗様	生駒、坂田
		福山市 保健福祉局 保健部 健康推進課	柿木様、佐伯様	
		福山市 市民局 まちづくり推進部 若者・くらしの悩み相談課	佐藤様	
4	11/1(金) 14:30-15:30	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様、末宗様	生駒、坂田
5	1/9(木) 13:00-14:00	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様、末宗様	生駒、坂田
6	3/5(水) 13:00-14:00	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様、末宗様	坂田
		福山市 保健福祉局 保健部 健康推進課	柿木様、佐伯様	
		福山市 市民局 まちづくり推進部 若者・くらしの悩み相談課	佐藤様	
7	3/11(火) 13:00-14:00	福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課	高松様、末宗様	生駒、坂田

6. 自治体による従前からの取組

■ ふくやま・ヤングサポートネットワーク(愛称:PAI×2【ペアペア】)

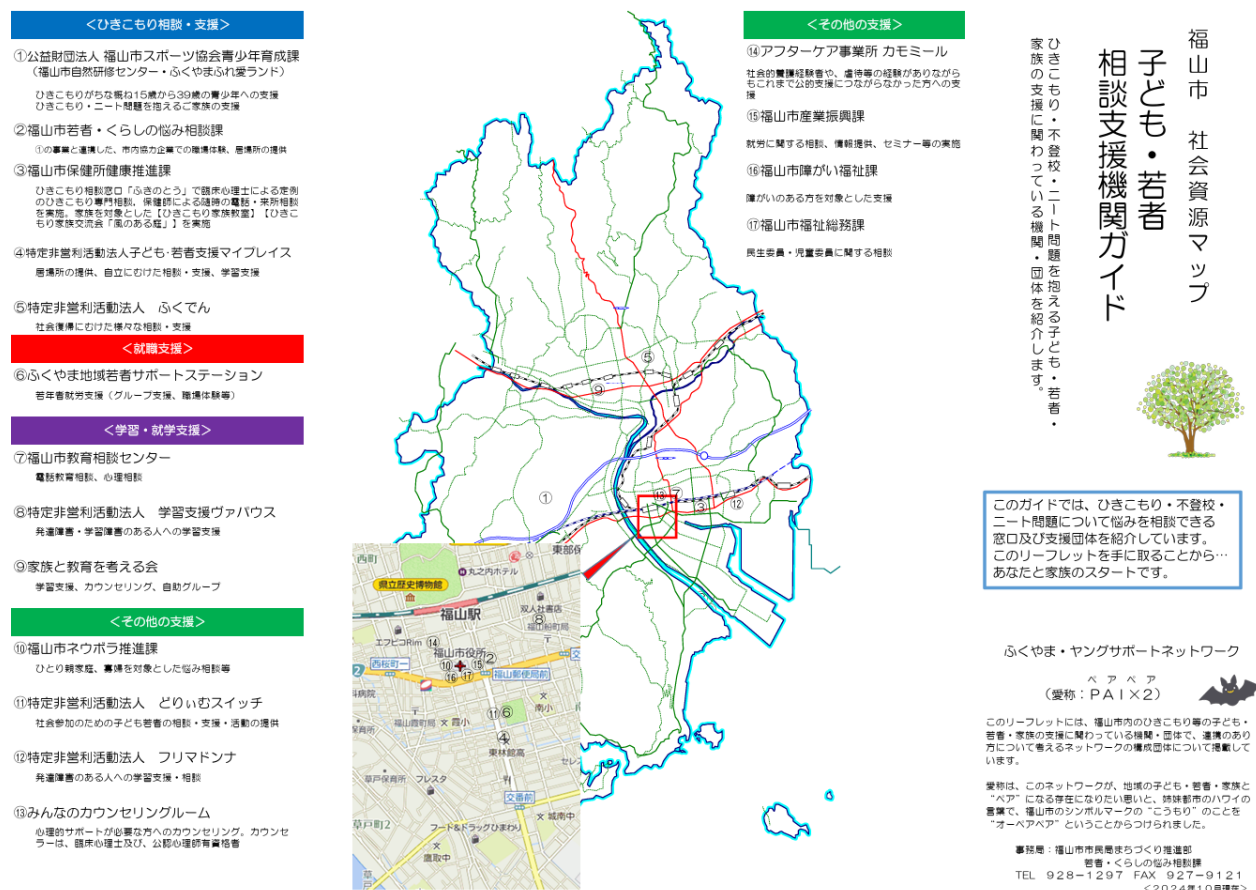
(取組概要)

ふくやま・ヤングサポートネットワーク(愛称:PAI×2【ペアペア】)は、子ども・若者のひきこもりや不登校、就職などについての悩みを相談、支援する団体で構成される組織であり、ひきこもりやその家族が抱える悩みに応じて適切な相談窓口を紹介している。

昨年度試行的事業では、福山市内のひきこもり等の子ども・若者・家族の支援に関わる機関・団体で、連携の在り方について考えるネットワークの構成団体等を掲載する社会資源マップについて、より視認性を高め利用しやすくするためにデザインの見直しを実施した。

今年度は、不登校・ひきこもり、就労支援等の悩みから、各相談窓口へつながるように福山市ホームページに掲載した。

図表 福山市社会資源マップ「子ども・若者相談支援機関ガイド」

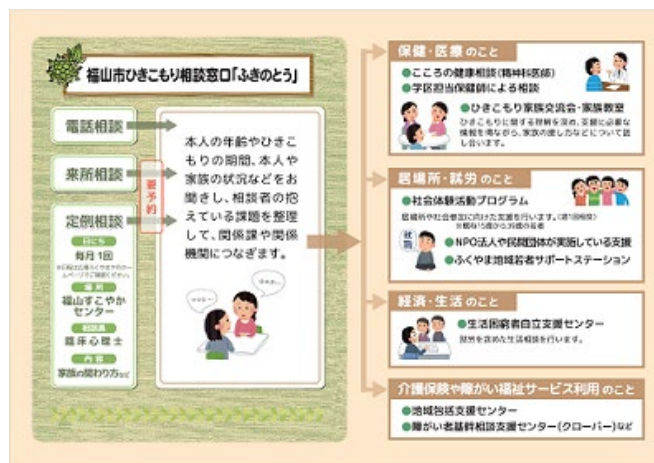


■ 福山市ひきこもり相談窓口「ふきのとう」

(取組概要)

ひきこもり状態にある方やその家族に対して、本人の状態や家族の思いに応じて助言を行うとともに、医療・福祉・就学などの適切な支援につなぐための相談窓口「ふきのとう」を設置している。保健師が相談を受け、本人の年齢や状態、相談内容に応じて適切な支援先を紹介するほか、毎月1回臨床心理士による定例相談を受け付けており、家族の関わり方などを相談できる。

図表 福山市ひきこもり相談窓口「ふきのとう」リーフレット



■ ひきこもり家族交流会・家族教室

(取組概要)

家族同士が集い、ひきこもりに関する情報を交換し、不安や悩み等、家族の気持ちを交流する場としてひきこもり家族交流会を実施している。

また、ひきこもりに関する知識や対応方法を学び、本人の理解を深める場としてひきこもり家族教室も実施している。

■ 交流館

(取組概要)

地域住民の活動を支える身近なまちづくりの拠点として、各小学校区に1館ずつ交流館(93館)がある。市民に身近な相談窓口として、地域課題や生活に関する相談を受け、解決に向けて関係機関と連携して取り組んでいる。

■ 包括的支援に向けた取組
(取組概要)

複雑化・複合化する支援ニーズや孤独・孤立などの課題に対応し、包括的な支援体制を構築するため、既存の取組を活かしながら、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり合う「地域共生社会」の実現に向け、令和4年度から令和5年度にかけて、「移行準備事業(重層的支援体制整備事業)」を実施し、実施体制等の検討を進めた。令和6年度から、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施する「重層的支援体制整備事業」を本格実施した。

昨年度、各関係課に次長級1名、担当者1名の連携担当職員を2名任命し、支援者支援会議へ出席し、連携担当職員同士で「顔の見える関係性」を構築し、庁内各課の更なる連携強化を図ってきた。今年度は、市内を5ブロックに分け、高齢・障がい・子ども・生活困窮などの各分野の支援機関等から参加を募り、支援者支援会議を開催し、多機関協働による支援の推進を図ってきた。

また、昨年度は、支援機関に相談に来た方の問題や悩みが、複数の機関に関係する場合、次の相談先へ確実に相談内容がつながるようにするため、聞き取った内容をひとつにまとめた「つながる」シートを作成している。「つながる」シートには、相談者が記入するシートを相談受付者が記入するシートに分かれており、状況を適切に次の相談先に共有できるようにしている。

図表 「つながる」シート様式

相談票 (相談者が記入してください) (様式1)

年 月 日

お困りのこと (ご相談内容)

■ご相談内容全てに○をつけてください。
一番困っていることに◎をつけてください。

病気や健康、障がいのこと	住まいについて	収入・生活費のこと
客員やローンの支払いのこと	税金や公共料金などの支払いについて	債務について
仕事探し、就職について	仕事上の不安やトラブル	地域との関係について
家族との関係について	子育てのこと	介護のこと
ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない
その他 ()		

■ご相談されたいことを具体的に書いてください。
支援にあたっての希望も書いてください。

ふりがな	性別	☐ 男 ☐ 女 ☐ () ☐ 大正 ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 ☐ 西暦
名 前	生年月日	年 月 日 歳
住 所	〒 -	
電 話	自宅	携帯
相談者	名前	ご本人との関係
(注)ご本人以外 の者を、記入し てください。	住所	☐ 家族(本人との続柄:) ☐ その他()
	電話 (携帯)	電話 (携帯)

相談支援の検討・実施等にあたり、私の相談内容を必要となる関係機関(者)と情報共有し、
保管・連携することに同意します。 ※ご了承される場合、チェックしてください。 ☐ 同意する ☐ 同意しない

相談記録 (相談受付者が記入してください) (様式2)

相談受付日	月 日 ()	部署名:	担当者:
相談済の部署	☐ 仕事 () ☐ 多摩橋 () ☐ 健康・生活 () ☐ 初期対応 () ☐ 介護 () ☐ 子育て () ☐ その他 ()		
☐ 別紙のとおり ☐ 次のとおり	家族関係図 (ジェノグラム)		
相談内容・概要			
<対応>			
当該の継続 有・無			
<他の相談先の紹介> 連絡先図			

※次の相談先を紹介する場合は、原本を本人が所持し、写しを所管課が保管してください。

7. 試行的事業

① 実態調査

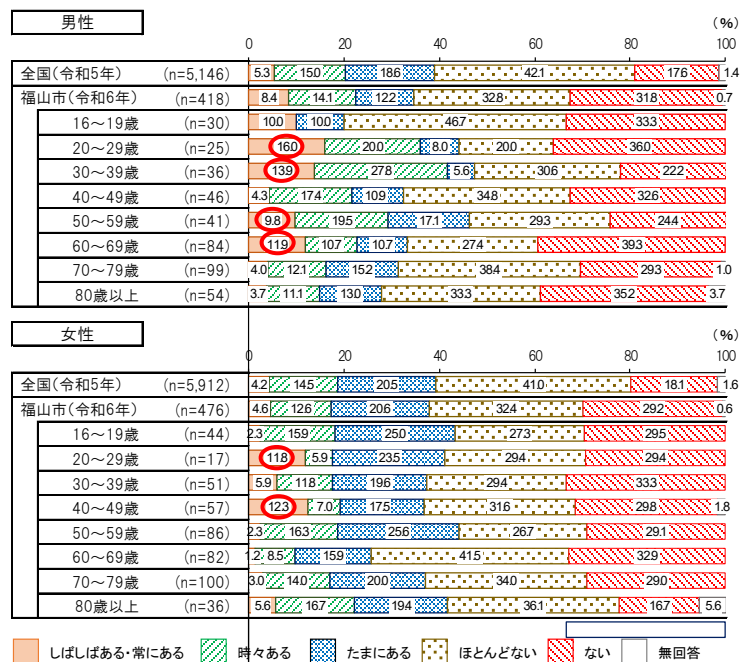
概要	- 調査対象者:16 歳以上の市民から無作為抽出した 3,000 人 - 調査方法:郵送により調査票を送付、郵送またはインターネット回答による回収 - 調査期間:令和 6 年 12 月 9 日(月)～令和 6 年 12 月 27 日(金) - 設問数:孤独や孤立に関する事項、年齢、性別等の属性事項等 31 問
ねらい	福山市における孤独・孤立の実態を把握し、これに関連する施策を実施している関係課において、対策を検討する上での基礎資料を得ること
工夫点	- 若年層はインターネット解答のみ、40 歳以上は、郵送・インターネットから回答方法を選択するようにするなど、年齢によって調査方法を変更した。 - 福山市独自の設問として、交流館に関する設問を設計し、交流館を今後の孤独・孤立政策で活かしていくためのヒントを得た。
結果	- 有効回答 905 件（回収率:30.2%） - 福山市では、20～40 歳代の孤独感が高く表れている。 4 割弱の人が交流館の利用経験あり。

(年代別孤独・孤立の実態)

- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男女・年齢階級別にみると、男性では 20 歳代*から 30 歳代及び 50 歳代から 60 歳代、女性では 20 歳代*及び 40 歳代で高い。

*N=30 以下のため、参考値

図表 年齢階級別孤独感



(交流館の存在意義)

- 交流館の利用経験のある人の中で、交流館を「安心して利用できる場所」「身近にある場所」ととらえる人の割合が高い。
- 別の設問で、「交流館の存在を知らなかった」という人はわずか 1 割程度であり、福山市民にとって交流館の認知度は高いことが判明した。

図表 交流館がどのような存在であるか

(単位: %)

		が身近にある場所 で、自力で行くこ と	好きなことをし て自由に過ごすこ と	人とのつながり を感じることがで き	ささいな困りこ とや悩みについて 、聞くことができる	が気軽に話しか けられ、相談でき る人	自由に使える場 所(スペース)があ る	公共施設である ため、安心して利 用できる	その他	交流館を利用し たことがない	無回答
全体	(n=905)	16.8	2.3	9.8	1.9	2.4	7.5	17.1	3.8	62.7	4.2

② つながりサポーター養成講座	
概要	- 職員、中学生の 2 種類の対象に対して、それぞれつながりサポーター養成講座を実施した。 - 受講者には講座受講後にアンケートを実施し、孤独・孤立への関心の高まりや、今後の意向(サポートの実施、講座内容の他の方への推奨)について把握した。
ねらい	声を上げやすい、かけやすい社会の構築に向けて、孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心を持ち、できる範囲で困っている人をサポートする人材の育成
工夫点	- つながりサポーター養成講座のテキスト「地域活動を知ろう」のパートに交流館の存在を記載する等、福山市ならではの特徴を踏まえたアレンジを加えた。 - 中学生向け講座では、動画や振り返りシートをアドオンするなど、中学生でも理解しやすいような形式・内容を心掛けた。
結果	- 養成講座への参加人数:福山市役所職員等 45 名、福山市立城北中学校生徒 222 名 - 職員向けアンケートにて、「今回の講座の内容を、他の職員や業務でかわりのある方にも共有しようと思う」と回答した人が 98%。

(つながりサポーター養成講座概要)

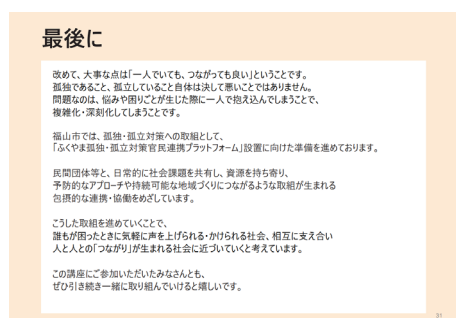
<職員向け講座>

- 日時:令和 7 年 1 月 27 日(月)14:00-16:00
- 場所:まなびの館ローズコム 4 階 中会議室
- 講師:特定非営利活動法人 新公益連盟 井澤徹氏
- 参加者:45 名

<中学生向け講座>

- 日時:令和 7 年 2 月 25 日(火)13:35-15:25
- 場所:福山市立城北中学校
- 講師:内閣府 孤独・孤立対策推進室 参与
認定 NPO 法人 自立生活サポートセンター もやい 理事長 大西連氏
- 参加者:1 年生 222 名

図表 使用したテキスト
(福山市から受講者へのメッセージ)



図表 職員向け講座の様子

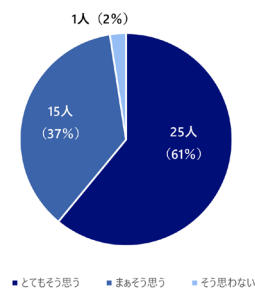


(アンケート結果)

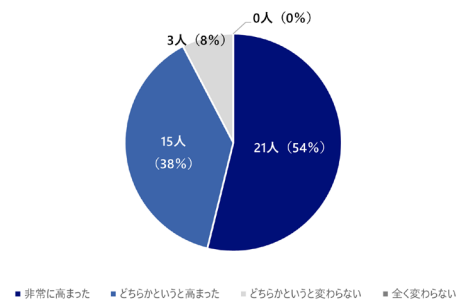
- ・ 職員向け講座は、行政職員の他に、社会福祉協議会職員、民生委員・児童委員、交流館主事が受講した。受講者の中で、「普段の業務の中で具体的に悩み事や困りごとを抱えた方からの相談を受けつけている」人は 7 割以上であった。
- ・ 「孤独・孤立の問題について興味・関心が高まった」と回答した人が 92%、「今回の講座の内容を、他の職員や業務でかかわりのある方にも共有しようと思う」と回答した人が 98%など、受講者の意識変容や行動変容につながる結果となった。

図表 アンケート集計結果(一部抜粋)

質問14 今回の講座の内容を、他の職員や業務でかかわり
のある方にも共有しようと思いますか。(N=41)



質問2 孤独・孤立の問題について興味・関心は高まりました
か？ (N=39)



③ 市民向け勉強会	
概要	「ふくやま・ヤングサポートネットワーク研修会」として、主にひきこもりや不登校の方やその家族を対象に比治山大学非常勤講師・広島城北学園アドバイザーの和田晋氏からの講演を実施。また、ひきこもり支援、学習支援、就職支援の NPO 法人等のブースを設け、支援団体の活動紹介や個別相談を実施した。
ねらい	- 市民に孤独・孤立という社会課題に関心をもってもらうこと - 主にひきこもりや不登校の方、その家族に支援の多様な在り方を知ってもらうこと
工夫点	参加者にひきこもり支援や学習支援等の支援団体を分かりやすく、知ってもらうために、口頭説明だけでなく、各団体のパネル(ブース)展示を行い、状況に応じて個別相談を実施した。
結果	- 参加者 96 名(青少年育成員、民間団体等の支援者、自治体関係者、ひきこもり等の当事者やご家族) - アンケートにて、「講演内容が参考になった」「支援団体活動紹介が参考になった」と回答する人が 9 割以上。

(当日の様子・広報に活用したポスター)

図表 講演会の様子



図表 支援団体の活動紹介



図表 ポスター

不登校・ひきこもり講演会 & 支援団体活動紹介
【ふくやま・ヤングサポートネットワーク（PAI×2）研修会】【福山市青少年育成員協議会研修会】
【（公財）青少年育成広島県協議会福山市青少年育成協議会主催事業】

参加無料

子ども・若者の可能性を拓く関わりと支援の方法
～自立をつくる人間理解と場所づくり～

講師 **和田 晋さん**
(比治山大学非常勤講師 広島城北中・高等学校アドバイザー)

プロフィール・講演内容
長年にわたる経験をもとに学校に勤務し、広島市内を巡回した経験から、多くの青少年の立ち回りに関わってきました。その経験をもとに、学校教育・家庭教育や地域連携に求められることについて一緒に考えていきたいと思います。
今回の講演会では、不登校やひきこもり事例を中心にその解決方法、関わり方を中心にお話しします。

ふくやま・ヤングサポートネットワークは福山市内で、ひきこもり・不登校・ネット等の子ども・若者の支援を行っている支援機関、団体です。今回の講演会は、不登校やひきこもりの当事者・経験者、家族、支援者、関心のある方など、どなたでも参加していただけます。当事者にとのように関わりたい方、どうすれば効果的な支援につながるか、といった疑問や悩みに対する一助になれば幸いです。

とき 2024年(令和6年) **11月23日(土・祝)** 13:30～15:00 (開場 13:00)

ところ 福山市役所本庁舎3階 大会議室

定員 先着 50名(要予約)

お申込方法 11月15日(金)までに
右の申し込みフォームから
または 084-928-1297へ電話
※当日参加が希望ですが、定員に達した場合は入場を断られることがあります。

支援団体活動紹介 15:10～16:30 福山市役所本庁舎3階 中会議室
※事前申込不要・入退場自由

ふくやま・ヤングサポートネットワークの概要・団体が支援内容について説明します。
また支援機関・団体から、直接支援内容も聞き、相談することができます。

問合せ 福山市 若者・くらしの悩み相談課
TEL: 084-928-1297 FAX: 084-927-9121
(受付時間: 月曜日～金曜日 8:30～17:15)
E-mail: wakamono-kurashi@city.fukuyama.hiroshima.jp

図表 支援団体一覧

ふくやま・ヤングサポートネットワーク
(略称: PAI×2)

福山市内のひきこもり等の子ども・若者・家族の支援に関わっている機関・団体で、連携の場や場所について考えるネットワークです。
支援は、このネットワークが、地域の子ども・若者・家族と「ペア」になる存在になりたいと、福山市のハロワの協賛で、福山市のシンボルマークの「くもり」のこを「オーペルペア」ということになりました。

ふくやま・ヤングサポートネットワーク 団体一覧

くもりへの輪加・支援	くもりの支援
①はなはな法人 福山市スポーツ推進青少年育成課 (福山市自然環境センター・ふくやまふれんどランド) ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援	②福山市青少年支援センター ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援
③福山市若者・くらしの悩み相談課 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	④特定非営利活動法人 どりいどシティ ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑤福山市若者・くらしの悩み相談課 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑥特定非営利活動法人 フリマドン ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑦特定非営利活動法人子ども若者支援マイプレイス ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑧みんみのワンセンタールーム ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑨特定非営利活動法人 くるくる ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑩アスターアスター かもめ ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑪ふくやま・ヤングサポートネットワーク ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑫福山市産業振興課 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑬福山市若者・くらしの悩み相談課 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑭福山市若者・くらしの悩み相談課 ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑮特定非営利活動法人 伊豆山アパラス ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑯特定非営利活動法人 伊豆山アパラス ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供
⑰特定非営利活動法人 伊豆山アパラス ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供	⑱特定非営利活動法人 伊豆山アパラス ひきこもり・ネット問題を抱えるご家族の支援、支援の提供

(アンケート結果(自由記述抜粋))

<講演の感想>

- ・ 不登校の当事者でした。人と人との関わりの中で、傾聴や共感をキーワードに、居場所づくりをしていくことが学びました。(民間団体等の支援者)
- ・ 目の前にいる人の声を大切にすることを改めて感じました。色眼鏡でみていることもあるので、気をつけたいと思いました。(自治体関係者)
- ・ 知らず知らずのうちに自分目線で分からせようという態度になっていたと思います。まずは、親が変わるという事を意識に刻みたいと思いました。(ひきこもり等のご家族)
- ・ 小中の不登校については市の援助が色々あるが、高校生の不登校、またその家族のサポートというところに対して、とても少ないと感じています。(ひきこもり等のご家族)

<支援団体活動紹介を聞いての感想>

- ・ 様々な機関、団体があることがわかりました。地域での相談対応等に役立てたいと思います。(青少年育成員・中央青少年育成員)
- ・ 各関係機関の横のつながりがもっと密になればより良いなあと思いました。(民間団体等の支援者)
- ・ 他の団体の方々がどのような活動をされているか知ることができて良かったです。支援団体同士の交流がもっと増え、横のつながりがより強化できればお互いに連携し、支援できることが増えていくだろうと感じました。(その他属性)
- ・ 市内にたくさんの支援団体があることを知りました。学校には親がいても頼れない、頼りたくない子どもがいます。学校にはスクールカウンセラーがいますが、それ以外の校外連絡は個人情報のこともあり、なかなか難しいし、進めにくいです。行政の方で、学校とこれらの事業所を結びつけてくださると、教員の負担も軽減されると思います。(その他属性)